

少雨・干ばつ対策について ～育苗期から移植期まで～

令和8年春は、宮崎県全域で令和7年12月以降これまでにない少雨となっており、地域によっては、水不足になりつつあります。代かきや移植が遅れることによる、**苗の徒長・老化、活着や分けつの遅れや、深水管理ができないことによる寒害**が生じることがあります。

以下の管理方法を参考に、対策をお願いします。

【育苗管理】

1. 移植が遅れることが予想される場合はハウス内の温度が上がらないよう換気に気をつける。**日中は20℃以下(外気程度)、夜間は10℃**
2. 育苗日数が25日を過ぎると肥料切れが生じるので、**苗の色むらが確認されたら追肥する**。また、葉やけしないよう施肥直後に散水する。
3. 苗が徒長するため、苗箱への**かん水は少なめ**に管理する。
4. 育苗日数が長くなると、いもち病や苗立枯れ病が発生しやすくなるので、**適宜防除**を行う。
5. 苗箱間隔を広げ、**風通しを良く**する。
6. 移植後の低温で寒害発生の恐れがある場合は、深水による保温ができないため、田植えを見合わせる。 追肥

水100ℓ	苗箱200枚分	箱あたり灌水量	資材名	使用量
		500cc/箱	液肥特2号	500cc
			硫安	600g
			尿素	300g

【本田準備】

1. 水系ごとに配水計画を定め、代かきや田植えを進める。
2. 丁寧に代かきや畦ぬりを行うとともに、モグラ・カニの穴を潰すことにより、漏水を防ぐ。
3. ほ場外に水が流出し無駄づかいをしないよう**水尻を開けない**。
※海に近い河川や地下水から**給水する場合は、海水の混入に注意**する。

【本田管理】

1. 移植が大幅に遅れ、穂数不足が懸念される場合は、苗箱数を勘案し、
・1株の植付け本数を多くする。
・栽植密度をやや多く(株間を短く)する。
2. 減水に応じて、数日間隔での計画的な給水に努める。
3. 除草剤を浅水で散布すると、**拡散不十分で薬害が生じることがある**(特にジャンボ剤やフロアブル剤)。薬害の少ない初期除草剤を選定するか、水深が十分に確保されてから、薬剤の使用時期・使用方法を守り適期散布を行う。
4. ほ場外に水が流出し無駄づかいをしないよう**水尻を開けない**。

【事後対策】

1. 葉いもちが発生したら、ただちに防除する。
2. 残草が多い場合は、中後期除草剤で除草する。

水稲栽培での節水に取り組みましょう

「浅水代かき」

- 湛水深をできるだけ浅くして行う代かき
- 代かき時の入水量の目安
田面に土が8割、水が2割程度見える状態
- 代かきまでにじっくりと湛水、十分に土を湿らせておくことで作業が楽になる

代かき作業は、水稲作付け準備～収穫の間までで最も用水を使います(100～120t/10a)

参考:水稲栽培期間中の必要量1500～2000t/10a

「浅水代かき」で記録的な小雨の中、限られた用水を有効活用しましょう。



「浅水代かき」の効果

- 稲わらや草を土に混ぜ込みやすい(浮わらが減る)
- 代かき跡が確認しやすく作業効率が良い
- これまでの代かきより水の量が減らせる(小雨対策)
- 肥料成分や濁り水が排水に流れない(肥料効率・環境配慮)

「浅水代かき」のポイント

- ほ場周囲を丁寧に代かき(漏水対策)
- 水を大切に使うため水尻は開けない
- 代かき時の水が足りない場合は少しずつ入水して作業
- コナギ等の雑草多発田ではしない